

チャペル週報

No.16

2013.9.30～10.4

わたしは主に望みをおき
わたしの魂は望みをおき
御言葉を待ち望みます。

(詩編130:5)



西宮上ヶ原キャンパス ランバス記念礼拝堂

関西学院宗教センター

☆チャペル・スケジュール☆

時間 10:35～11:05 場所 各学部チャペル

9月30日(月) 神 <夏期派遣実習報告> 中 島 純 (神学研究科M2)
経 基礎演習別秋学期学生生活オリエンテーション ①
人 大 石 健 一 (茨木春日丘教会牧師)
聖和 聖書物語「世界をてらす光」

10月1日(火) 院 中 村 和 光 (神学研究科M2)
神 <夏期派遣実習報告> 川 崎 愛 (神学研究科M2)
文 音楽チャペル ゴスペルクワイア P.O.V.
社 動詞シリーズ「悩む」② 鈴 木 慎一郎 (社会学部教授)
法 栗 林 輝 夫 (宗教主事)
経 基礎演習別秋学期学生生活オリエンテーション ②
商 西 本 章 宏 (商学部助教)
国 平 林 孝 裕 (宗教主事)
聖和 ビデオでみる関学の歴史
総 吉 野 太 郎 (総合政策学部専任講師)

10月2日(水) 神 宮 原 明 (理事長)
社 動詞シリーズ「悩む」③ 高 原 基 彰 (社会学部准教授)
法 English Chapel Christian Morimoto Hermansen (宣教師)
経 基礎演習別秋学期学生生活オリエンテーション ③
商 山 本 俊 正 (宗教主事)
国 平 林 孝 裕 (宗教主事)
聖和 田 淵 結 (教育学部宗教主事)
理 前 川 裕 (宗教主事)
総 村 瀬 義 史 (宗教主事)

10月3日(木) 神 <夏期派遣実習報告> 稲 葉 義 也 (神学部4年)
文 Andreas Rusterholz (宗教主事)
社 動詞シリーズ「悩む」④ 打 樋 啓 史 (宗教主事)
法 栗 林 輝 夫 (宗教主事)
経 基礎演習別秋学期学生生活オリエンテーション ④
商 English Chapel Timothy Boyle (宣教師)
国 Timothy Tsu (国際学部教授)
聖和 「平和とは～ヒロシマで学んだこと」井坂和香(保1) 糸繰さら(保1) 佐山明日香(保1)
総 北 田 真 也 (総合政策学部2年)

10月4日(金) 神 <監理教神学大学訪問報告> 永 富 美 加 (神学部3年)
文 English Chapel Andreas Rusterholz (宗教主事)
経 基礎演習別秋学期学生生活オリエンテーション ⑤
人 人間について考える ⑩ 池 埜 聡 (人間福祉学部教授)
聖和 「幼稚園実習を終えて」長 朱 華 (保2) 泰 れみな (保2)
理 前 川 裕 (宗教主事)

◇ランバス早天祈祷会 毎金曜日 8:20～8:40 ランバス記念礼拝堂 (上ヶ原)
10月4日(金) 神学部のために 土 井 健 司 (神学部長)

他人の不幸を願わないために

柳 澤 田 実

他人の不幸は蜜の味という言葉がある。こうした他人の不幸を喜ぶ感情をドイツ語では「シャーデンフロイデ」と呼ぶらしい。直訳すると「恥ずべき喜び」という言葉であるから、当然ポジティブな意味付けはされていない。とはいえ、こうした感情に対して、複数の言語において一つ概念や言い回しが確立されていることから分かるのは、どうやら多くの人がこの感情に、身に覚えがあるということである。この「恥ずべき喜び」について、2009年に米国の「Science」誌で発表され話題になった、日本の脳科学者たちによる研究がある。高橋英彦氏（独立行政法人放射線医学総合研究所）らの研究が明らかにしたのは、普段から妬みに関する脳活動が活発な人は、他人の不幸に対して快を感じるということだった。私が興味深く感じたのは、高橋氏らが fMRI を用いて、嫉妬という感情に前部帯状回と呼ばれる葛藤や身体的な痛みを処理する脳内部位が関連することを示した点にある。嫉妬とは、「心の痛み」、少なくとも身体の痛みに匹敵する現象だと彼らは言う。そして、「心に痛みを抱えた人は、その心の痛みを軽減するために、他人の不幸を喜んだり、不幸そのものを引き起こそうとする非道徳・非建設的な行動を取る場合があり、時には犯罪につながるケースもある」（独立行政法人放射線医学総合研究所 HP より）、と彼らは続ける。

教父アウグスティヌスは、著書『神の国』のなかで、嫉妬を高慢に引き続く感情とし、「あらゆる罪の始まりは高慢である」（シラ書 10:13）という聖書の語句を引用した。カインによるアベル殺しを筆頭に、聖書のなかの様々な加害行為の起源に、嫉妬および高慢が見出されることについては改めて言うまでもないだろう。先ほどの脳科学研究は、キリスト教が伝統的に「罪」と呼んで来た現象に「身体の痛み」に匹敵する現象」という新たな見方を提供したと言える。こうした結果が出ると脳科学者たちは即、薬物で脳内を操作しようとする方向に向かうが、私自身はこれには賛同できない。とはいえ、キリスト教徒たちが、伝統的解釈を尊重するあまり、こうした経験科学の成果を他人事のように見過ごすことにも反対だ。罪を「痛み」と捉え直した上で、祈ること、愛することが、こうした「痛み」をいかに緩和できるのか、できないのか、改めて考えてみたい。

(神学部准教授)

●秋の献血週間のお知らせ

学生会宗教総部では、夏の献血週間を実施いたします。提供していただく血液は、兵庫県赤十字血液センターでの検査を経て医療現場に届けられます。皆様のご協力をお願いします。

期 間：9月30日(月)～10月4日(金)

受付場所：吉岡記念館ラウンジ

主 催：宗教総部献血実行委員会

●関西学院チャペル・オルガニスト秋の発表会

各学部のチャペルで奏楽を担当するチャペルオルガニストはじめレッスン生たち45人が練習の成果を披露します。パイプオルガンに関心のある方、そしてランバス記念礼拝堂に入ったことのない方もお気軽にお越しください。演奏中以外は入退場自由です。

と き：10月5日(土) 10:00～16:00

ところ：ランバス記念礼拝堂(上ヶ原)

指導者：太宰まり、能島亜未、坂倉朗子、西山聡子

主 催：宗教センター

●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプローズタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、授業期間中の毎週金曜日にチャペルアワーを開催しています。どなたでも参加できますのでどうぞお越しください。

10月4日(金)「125周年に向かって」山本俊正(院長補佐)

10月11日(金)、18日(金)、25日(金)

18:00～18:20 1405教室

●ランバスチャペルアワー

学生たちが企画するチャペルです。秋学期の予定は以下のとおりです。

10月22日(火) 10:35～11:05

11月19日(火) 10:35～11:05

いずれもランバス記念礼拝堂(上ヶ原)にて

●夕べの祈りatランバス～テゼの音楽とともに～

ろうそくの光を灯して、テゼの歌を歌いながら、皆でこころ静かに過ごす夕べの祈りのひととき。

秋学期は以下の3回行ないます。どなたでもご参加ください。

第1回 10月10日(木) 18:30～20:00

第2回 11月7日(木) 18:30～20:00

第3回 1月9日(木) 18:30～20:00

ところ：ランバス記念礼拝堂(上ヶ原)

主 催：夕べの祈り準備会(学生有志)

協 力：関西学院宗教活動委員会

●CD・DVDライブラリー

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するCDやDVDを備えています。本学学生及び教職員(学生証または身分証明書必要)であればどなたでも利用できますので、希望者は事務室までお越しください。

●使用済み切手収集にご協力ください

本学では日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)切手部の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますのでどうぞ吉岡記念館常設の回収箱にお届けください。

●盲導犬育成のためご協力をお願いします

関西学院宗教活動委員会は、目の不自由な方々の社会参加促進を願い、社会福祉法人「日本ライトハウス」の募金活動に協力しています。吉岡記念館事務室はじめ各学部カウンターに募金箱を用意しておりますので皆様の温かいご協力をお願いいたします。